



No.24

げんきカエル



こども病院ニュースレター

新年のごあいさつ

「ハイリスク胎児と こども達を守る砦で最高の医療を」

病院長 丸尾 猛



新年おめでとうございます。

本院は昭和45年に皇政100周年記念事業として国立小児病院に次ぐ全国2番目の小児総合病院として開設され、兵庫県下のハイリスク胎児とこども達を守る高度専門医療の拠点としての役割を担っています。少産少子化が進み、一人ひとりのお子さまへのご家族の期待が益々大きくなる一方、核家族化が進みご両親の育児不安は一層高まっています。その分、当こども病院が果たさねばならぬ役割は大きさを増しており、職員一体となって、ほほ笑みとこどもの目線での語りかけを大切にチーム医療を実践したいと考えています。

本院では、「安心」と「信頼」の小児医療の提供を目指し、指導相談・地域医療連携部が中心となって、前方連携、後方連携を促進し、お子さまとご家族が安心して治療・療養に専念できるよう、地域の医療機関との連絡調整を行いながら様々な相談に応じています。長期入院を余儀なくされているお子さまにつきましても、安心して在宅療養に移行できるよう、病棟スタッフと指導相談室スタッフが協働して、ご家族のご理解のもとにご協力が得られるよう退院に向け支援を行っています。そして、たとえ疾病・障害をもつお子さまであっても、安心できる在宅療養ができる支援体制の実現を目指しています。

また、1年3か月前にオープンした小児救急医療センターでは、三次救急を中心とした救急小児患者の受け入れを行っています。小児救急では、必ずしも生命に関わる重症患者でなくても、ご両親にとって夜間のお子さまの変化は心配なものです。本センターでは小児三次救急施設とはいえ、専門の医師・看護師によるトリアージ機能・デストリビューション機能を発揮して、救急救命だけでなく、「安心できる子育て」支援に貢献したいと考えています。

本院では、職員一人ひとりが新しい生命の誕生と将来を担うこども達の命に関わる仕事に従事していることを自覚し、常に次元の高い危機感を持って医療者・患者間の情報を共有しあい、ハイリスク胎児とこども達を守る砦として、皆様に安心し信頼される最高の医療を実践したいと考えています。

新年を迎え、皆様方にとって素晴らしい一年でありますよう心より祈ります。

丑



MEさんのお仕事

臨床工学技士 中村 智裕

ME(エムイー)とは、Medical Engineerの略で直訳すれば「医療技士」ということとなりますが、正式には「臨床工学技士」という職種です。県立病院ではまだまだ配置されている人員も少なく、十分な能力を発揮できている施設は少ない状況ですが、関東や東海地方の病院では既にその幅広い業務能力が認められ、1施設10名以上の施設が一般的で、多い施設では100名以上のスタッフがいる病院もあり、私が5年前まで勤務していた愛知県の病院も26名いました。

こども病院では、人工心肺や緊急心肺補助循環(ECMO)などの臨床業務を中心として平成15年4月にはじめて正規職員1名が採用され、その後、院内の医療機器(ME機器)の保守管理業務にも力を入れ、中央管理化を進めてきました。今では700台以上の

機器を管理するまでになり、ME室に返却されてくる機器の点検だけでも1日30件以上にもなります(年間約7000件)。そのほか、故障修理や定期点検、機器の稼働率調査のほか、勉強会の開催や機器に関する様々な相談に対する対応など幅広く活動しています。

こども病院には、現在1500台以上ものME機器があり、これらを全て中央管理化するためにはまだまだ時間と労力を必要としますが、現在5名のスタッフでより良い

医療環境作りのため更なる業務の充実日々努めています。



保育士の活動

一般外科病棟 保育士 馬場 友紀

11月から血液主体病棟と循環器病棟に加え、一般外科病棟と混合病棟にも保育士が配置となり、より多くの入院している子どもたちに関われるようになりました。入院中の子どもは家族と離れて寂しかったり不安だったりしてストレスを抱えやすい状況にあります。そんな時、保育士は子どもに寄り添い、安心して楽しく遊べるようにしています。

プレイルームでは設定保育の時間をつくり絵本を読んだり、手遊びや工作等を集団で行うようにしています。プレイルームに来られない子



ども達には、保育士がベッドサイドに行き偲々に応じた遊びをします。

保育士5人、月曜から金曜まで勤務していますのでお気軽にお声をかけてください。



